

# 物流博物館

## NEWS VOL. 10

2009年9月15日発行



5トンコンテナのテスト輸送 汐留貨物駅にて（1959年）

### 特集 鉄道貨物輸送の今昔

50年前と現在をくらべてみると・・・

EF210電気機関車（愛称：桃太郎）が牽引するコンテナ列車（2008年7月撮影）  
撮影協力：JR貨物



コンテナ専用特急貨物列車「たから号」  
汐留貨物駅にて（1959年）



50年前の昭和34年（1959）、日本初のコンテナ専用特急貨物列車「たから号」が運転を開始、鉄道輸送にコンテナ化の時代が到来しました。

今年は鉄道コンテナ輸送が本格的に始まって50周年となります。

そこで今号では、50年前と今日の鉄道貨物輸送を比較してみました。

※注記のない写真はすべて物流博物館の所蔵です。

### 企業ミュージアム社会貢献・優秀賞を受賞しました

2009.4.22

4月22日大阪にて、NPO法人企業ミュージアムの協会より、企業ミュージアム社会貢献賞の優秀賞に当館が選ばれ表彰されました。開館以来10年間の活動に加え、昨年8月に行った常設展示のリニューアル、なかでも映像システムの活用法が他館の参考になると評価されたようです。

頂いた記念プレートは受付に飾ってありますので、ご来館の際にはご覧下さい。



# 50年前の鉄道輸送・現在の鉄道輸送

鉄道へのコンテナの導入は昭和6年(1931)から行なわれていましたが、戦後ふたび実験的な導入が進められ、当時の国鉄では新たに日本独自の5トンコンテナという規格を開発、昭和34年(1959)11月5日、東京・汐留貨物駅と大阪・梅田貨物駅の間をノンストップ10時間55分で結ぶ初のコンテナ専用特急貨物列車「たから号」の運転を開始し、ここにコンテナによる本格的な貨物輸送が始まりました。

この年の国内貨物の輸送分担率は、輸送トンキロ(※)で鉄道が約42%、トラックが約15%、内航海運が約43%、航空輸送が約0.003%で、陸上輸送では鉄道が大きな割合を占めていました。しかし7年後の昭和41年(1966)にはトラック約31%、鉄道約27%でトラックが鉄道を追い抜き、その後、鉄道の分担率は昭和45年(1970)をピークに、以後は下降線をたどっていくことになります。

50年前のコンテナ輸送はまだ始まったばかりの最新技術で、今日ならコンテナで運ばれるような貨物は、当時は有蓋(ゆうがい)貨車で運ばれていました。貨車では常に貨物を積み卸す荷役作業が発生します。この作業は長らく人力で行われてきましたが、この時代になるとパレット、ローラーコンベア、フォークリフトなどを組み合わせて効率化するさまざまな工夫が行われるようになりました。コンテナの導入もまた、こうした効率化を進めるために行われましたが、やがてコンテナ化が鉄道貨物輸送の趨勢となり、一般の有蓋貨車は姿を消していきました。

現在、コンテナ輸送は鉄道輸送全体の約52%を占め、残りを車扱とよばれる専用貨車を使ったセメント・石灰石・石油・石炭などの輸送が占めています。今日ではトラック約61%に対し鉄道4%と分担率は低下しましたが、鉄道は環境に負荷の少ない輸送手段として注目されており、コンテナ輸送は年々増加傾向にあります(数値はいずれも2007年現在)。

※輸送トンキロ:1tの貨物を1km運ぶと1トンキロとなる。輸送量を示す単位。



貨車で到着した米俵を人力でトラックに積込む  
岡田川貨物駅にて(1958年頃)



パレットとローラーコンベアによる貨車からの  
取卸し作業(1958年頃)

現在、JR貨物では5トン(12フィート)コンテナ以外に、20フィート、31フィートなどの規格のコンテナも利用されています。31フィートコンテナは10トントラックと内容積が同じなので、鉄道への転換をしやすくなっています。5トンコンテナには、冷蔵・冷凍コンテナもあります。コンテナにはICタグが付けられ、効率的な作業が可能なシステムが構築されています。



JR貨物・東京貨物ターミナル駅にて  
(2008年撮影) 撮影協力:JR貨物



31フィートコンテナを荷役するトップリフター  
(2008年撮影) 撮影協力:JR貨物



液体の貨物を輸送するISO規格の20フィート・  
タンクコンテナ(2008年撮影) 撮影協力:JR貨物

## 2008年度の物流博物館をふり返って～業務日誌より～

4月	5月	6月	7月	8月	9月
5,19日 高輪伝馬の会 (古文書勉強会) 14日～ 常設展示リニューアル 工事のため休館	常設展示リニューアル 工事のため休館 17日 高輪伝馬の会	常設展示リニューアル 工事のため休館 7日 高輪伝馬の会	常設展示リニューアル 工事のため休館 5,19日 高輪伝馬の会	～22日 常設展示 リニューアル工事のため 休館 23日 リニューアル オープン 24日 ダンボール工作 コーナー 34名	6,20日 高輪伝馬の会
10月	11月	12月	1月	2月	3月
4日 高輪伝馬の会 11日 ごてんやまファ ミリーフェスタへ参加 17日 入館者数8万人 達成	1,15日 高輪伝馬の会	6日 高輪伝馬の会 20日 クリスマス・ サンタクロース映画会 63名	17日 高輪伝馬の会	7,21日 高輪伝馬の会	7,21日 高輪伝馬の会

# 館内探検 のぞいてみよう！ 物流体験コーナー

地下1階「現代の物流」展示室の奥の一角に「物流体験コーナー」があるのをご存知ですか？靴を脱げるスペースでゆっくりと体験することができ、お子さん連れのグループを中心に賑わっています。当館では実物資料や映像などの展示に加えて、「運ぶ」ことにより親しんでいただきたいと、2001年以来さまざまな体験キットの開発・充実に取り組んできました。そして昨年ついに常設の体験コーナーが完成しました。現在体験コーナーにあるキットは全部で7種。大人から子どもまで、一人でもグループでも挑戦できます。簡単にキットの内容をご紹介します。

## ◆団体見学でも人気！「変身キット」

年齢を問わず人気があるキットです。宅配便各社のドライバーや貨物列車の機関士などの制服を着て、「運ぶ人」になりきってみましょう。それぞれの制服には動きやすさや安全を確保するための工夫が施されています。制服は実物をご用意しています。

## ◆懐かしい？新しい？「ふるしきで包んでみよう」！

ふるしきを「運ぶ」道具にするための基本をご紹介します。ご希望に応じて結び方の講習も致します（要予約）。

## ◆迫力満点！「ジャンボ物流パズル」

大きさがタタミ一畳ほどにもなるジグソーパズルです。普段はなかなか覗くことのできない倉庫の中やトラック・貨物列車など、パズルを完成させると迫力満点の大きな写真で見ることができます。

## ◆「物流タウンシート」

2メートル四方のシートを広げると、そこに現れるのは物流タウン。おもちゃのトラックに荷物をつみこんで、工場から港へ届けるなどの物を運ぶ「ごっこ遊び」ができます。お子さん連れに人気でリピーターの方もおられます。

この他にも自分だけの運ぶ乗り物を作る「ダンボール工作」（材料費100円）、「めり絵であそぼう」、大人でもちょっと難しい（！？）「ナワがけ体験キット」があります。いかがでしょう、気になる体験キットは見つかりましたか？展示をご覧になった後は、是非物流体験コーナーにお立ち寄り下さい。これからも体験キットの充実をはかっていきたいと考えています。

なお、館内では物流体験コーナー以外（※）にも体験キットをご用意しています。そちらも見かけたら是非お手にとってくださいね！

※1階「物流の歴史」展示室「運びくらべ」「飛脚に変身」  
2階「ふるしきで包んでみよう」（次頁写真参照）  
これらは特別展示期間中など展示していない場合もありますので予めご了承ください。



物流体験コーナー  
(地下1階・「現代の物流展示室」)



ジャンボ物流パズル「大型トラック」



物流タウンシート

## 2009年度のイベントカレンダー

### 「鉄道コンテナ輸送50年（仮称）」展

12月

12月9日～3月下旬（予定） 共催：JR貨物

戦後の鉄道貨物輸送の転換点となったコンテナ専用特急貨物列車「たから号」の運転開始50周年を記念して、鉄道へのコンテナ導入から今日に至るあゆみを紹介するコーナー展示です。「たから号」運転開始当時の初期の写真、さまざまな鉄道コンテナや専用列車の写真、模型や資料などを用いて鉄道コンテナ輸送の50年の歴史と現在の姿を概観します。

### ごてんやまファミリーフェスタ

10月

10月24日 13時半～16時

品川区立御殿山小学校父母と先生の会などが主催する御殿山地区の親子祭りに参加します。

### 段ボール工作教室

8月

8月16,23日 10時～16時半受付

ダンボールを使って貨物を運ぶ乗り物を作ります。  
対象：幼児～小学校4年生

### 産業考古学会との共催事業

通年

産業考古学会・東京産業考古学会と共催で、物流や近代産業に関する研究報告・映像上映・講演会などを行っています。

4月18日 13時半～17時半

明治幕末の鉄生産と輸送Ⅱ

6月20日 13時半～15時15分

映像で見る日本のモダニズム建築

7月25日 13時半～17時半

講演会 幻の建造船を追って

9月5日 13時半～17時

講演会 文書資料と鍛冶遺跡からみた江戸の鉄の流通

### クリスマスサンタクロース映画会

12月

12月20日 時間未定

プレゼントを「運ぶ」サンタクロースの映画を上映します。対象：幼児～小学生

# 昨年度の学校見学

2008年度の学校団体入館者データ

小学校：23校・1261名／中学校：17校・118名

その他学校：9校・210名

2008年度全体入館者数：5,733名

(※4月～8月はリニューアル工事のため休館)

当館では開館以来、各学校が実施する社会科見学などの校外学習対応に、毎年力を入れて取り組んでいます。

学校見学では、先生方のご要望を伺いながら、映像の上映や、ワークシートを使った展示室見学、各種の体験を組み合わせ、幅広い観点から情報の提示を行い、学習に役立てていただいています(表1参照)。

昨年度は、開館10周年を機に常設展示「現代の物流」展示室を中心に展示のリニューアルを実施したため、新規にワークシートを作成するなど新たな展示環境を活用した見学対応を行いました。

昨年のリニューアルでは、館内の映像視聴システムを新しく構築したことが特徴のひとつとなっています。たとえば、地下1階「現代の物流」展示室にある、陸海空の物流ターミナルを再現した大型可動ジオラマのコーナーでは、設置された3台のモニターで、模型に表現された個々の作業現場の実際の映像が視聴でき、いながらにしてさまざまな物流現場の社会科見学をしているような体験が可能になりました。他にもいろいろな映像コーナーがあり、自由な視聴が可能となっています(表2参照)。以前に比べ、より多くの物流の具体的な様相に触れる見学が可能となり、先生方からもご好評をいただくことができました。また、以前と同様、前頁でご紹介した各種の体験も見学の中に取り入れて、楽しく見学する工夫を行っています。こうした見学の内容やワークシートは、当館ウェブサイトでもご覧頂けます。



左：宅配便などの制服  
中：飛脚の衣装  
右：昔の運ぶ道具体験「運びくらべ」

(表1) 昨年度の一般的な見学スケジュール

	1組	2組
20分	導入・物流に関する映像上映(2階)	
35分	昔の運ぶ道具体験 ↓ 物流の歴史展示室を見学(1階)	現代の物流展示室を見学(地下1階)
35分	現代の物流展示室を見学(地下1階)	昔の運ぶ道具体験 ↓ 物流の歴史展示室を見学(1階)
30分	昼食(2階)	

※見学時間は2時間以上にすることも可能です。体験では、環境問題との関連で、体験プログラム「ふるしきでバッグを作ろう」(所要時間20分～)を組み込む学校も増えています。



地下1階「現代の物流展示室」

(表2)

映像が視聴できる場所	主な内容
えらべる映像コーナー(B1F)	物流に関する過去の産業映画・物流企業の案内映像など
陸海空の大型ジオラマ(B1F)	現在のさまざまな作業現場の映像
物流で働く人々(B1F)	インタビュー・さまざまな業務の紹介映像
みちかな物流宅配便(B1F)	宅配便のしくみの紹介
貿易と国際物流(B1F)	さまざまな業務の紹介
物流の情報システム(B1F)	R/ID、宅配便や倉庫管理の情報システムの紹介
物流の歴史展示室モニター(1F)	江戸時代、近代の物流の歴史や展示映像解説映像

## 展示図録販売中!

常設展示及びこれまで開催した特別展の展示解説図録を販売しています。通信販売も承っておりますのでお気軽にお問い合わせください。

【販売図録】

『物流がわかる本』(400円)、

『横浜浮世絵に見る 近代物流事始』(300円)、

『宅配 昭和はじめの宅配便』(400円)、

『収蔵資料展 京都馬借/鉄道絵巻コレクション』(200円)

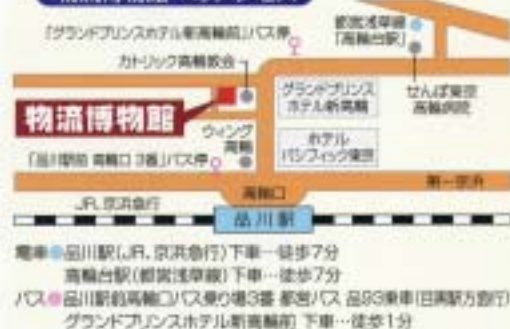
『昔の荷物ミニ図鑑』(400円)、『企業が写した昭和の風景』(400円)、

『図説・川の上の近代—通運丸と関東の川蒸気船交通史—』(600円)



## 物流博物館のご案内

### 物流博物館へのアクセス



所在地 〒108-0074 東京都港区高輪 4-7-15 Tel 03-3280-1616 Fax 03-3280-4385 <http://www.lmuse.or.jp> 開館時間 午前10時～午後5時  
休館日 毎週月曜日(但し月曜日が祝日・振替休日の場合はその翌日)、毎月第4火曜日、祝日の翌日(土日を除く)、年末年始  
入館料 小中学生：100円(土曜日無料、小学生は一部平日も無料) 高校生以上：200円 ※学校関係の団体は入館料が免除になります。